

令和5年度和歌山県文化奨励賞

紀州の民話をオペラに実行委員会

創 立 平成27年
代 表 杉山 みかん (本名 堤 敦子)
所 在 地 和歌山県和歌山市

◎ 業績及び経歴

平成27年10月1日にふるさと和歌山の民話や史実にもとづく物語をオリジナルの音楽劇として上演するために発足。民話には古からの貴重なメッセージが込められているとの考えのもと、数々のオリジナル作品の制作、上演を行う。

旗揚げ公演の平成28年は「住蛇が池の花嫁～岩出市～」を和歌山県民文化会館小ホールで初演。岩出市教育委員会からの依頼を受け、杉山みかん氏の脚本・演出、森川隆之氏の作曲により、岩出市根来にある住持池の伝説を音楽劇に仕上げた。第2回公演では旧貴志川町（現紀の川市）に伝わる民話を題材に「国主淵物語」を上演。第3回、第4回公演では龍神村（現田辺市）の小森谷溪谷に伝わる民話を取り上げ、護摩檀山の謂れとされる平維盛伝説について、山里の娘お万とのはかない恋の物語「恋小袖の瀧」として和歌山市及び田辺市で上演を行った。令和3年の第5回公演では幕末から明治にかけて和歌山城下に居住した川合小梅が記した日記を題材に、近代日本の草創期を、小梅さんの目を通して親しみやすく上演した。

これらの音楽劇の出演者は幅広く、プロで活躍する声楽家のみならず、尺八奏者、長唄三味線奏者、法螺貝吹奏やパーカッショニストなど、作品の世界観に応じて多様性に富んでおり、また、小学生や少年少女合唱団、和歌山大学生など、舞台上で若年者の演技が光る場面も多い。さらに、上演に際してはメンバー内で話し合いを重ね、点字プログラム、音声ガイド、舞台上での手話通訳等を率先して用意し、誰もが音楽劇を心地よく楽しめる環境づくりについて熱心に取り組んでいる。

ふるさと和歌山に古から伝わる民話をオリジナルの音楽劇に創造し、多様性を重んじ心を込めて観客に届ける活動は、和歌山の文化の向上発展に貢献しており、今後もその活動に大きな期待が寄せられる。

◆主な表彰歴等